

耳鼻咽喉科

1 研修目標

(1) 一般目標

耳鼻咽喉科学は、聴覚、平衡覚、嗅覚、味覚、呼吸、発音、構音、発声、咀嚼、嚥下など生命維持やコミュニケーションにとって重要な機能が集まっている領域を担当する。小児から高齢者まですべての年齢層、そして男女とも対象となり、耳科手術、鼻科手術、頭頸部手術を中心とした外科的治療や、難聴、めまい、鼻アレルギーを中心とした内科的治療の両者を必要とすることから、幅広い知識と医療技能の習得が求められる。このような耳鼻咽喉科領域特有の専門的な知識、技能を要する診療に加え、外科系研修としての基本的な手技および周術期全身管理を習得することを目標とする。

(2) 行動目標

- ① 耳鼻咽喉科領域の解剖、生理、病態を復習し、外来および入院患者の状態について指導医とディスカッションする。
- ② 入院患者の受け持ち医となり、入院時診察の実施、病棟回診・術前カンファランスにおけるプレゼンテーションを行う。
- ③ 手術の助手として耳鼻咽喉科・頭頸部外科手術に参加する。外切開だけではなく顕微鏡手術、内視鏡手術など特殊な手術にも参加する。
- ④ 切開、縫合、結紮など基本的な外科手技や周術期の全身管理について学ぶ。
- ⑤ 救急医学と関連の深い、鼻出血や急性上気道炎、気道緊急などについて耳鼻咽喉科の視点に立った救急診療を行う。
- ⑥ 他科からの依頼として頻度の高い、嚥下障害と気管切開の管理について専門家としての診療を学ぶ。

2 研修方略

(1) 研修期間

1 か月間

(2) 方法

- ① 耳鼻咽喉科領域の解剖、生理、病態を復習し、外来および入院患者の状態について指導医とディスカッションする。
- ② 入院患者の受け持ち医となり、入院時診察の実施、病棟回診・術前カンファランスにおけるプレゼンテーションを行う。回診は毎日、カンファランスは週に一回程度サマリとしてカルテに記載する。
- ③ 手術の助手として耳鼻咽喉科・頭頸部外科手術に参加する。外切開だけではなく顕微鏡手術、内視鏡手術など特殊な手術にも参加する。手術記録を作成し、指導医の指導を受ける。

- ④ 切開、縫合、結紮など基本的な外科手技や周術期の全身管理について学ぶ。
- ⑤ 救急医学と関連の深い、鼻出血や急性上気道炎、気道緊急などについて耳鼻咽喉科の視点に立った救急診療を行う。
- ⑥ 他科からの依頼として頻度の高い、嚥下障害と気管切開の管理について専門家としての診療を学ぶ。
- ⑦ 適宜行われる学会の予演会や各種臨床検討会、死亡症例検討会に参加する。

(3) 週間スケジュール

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|--------|------|-------|-----------------|-----------|-----------|
| 8:00～ | | | | 手術カンファレンス | 入約カンファレンス |
| 8:15～ | 病棟回診 | | | | |
| 8:45～ | 手術 | 外来 | 外来 | 手術 | 手術 |
| 14:00～ | 手術 | 補聴器外来 | 腫瘍外来 アレルギー外来 | 手術 | 手術 |
| 16:00～ | 病棟回診 | | | | |

3 研修責任者

耳鼻咽喉科 部長 塩野 理

4 研修指導医

耳鼻咽喉科 部長 塩野 理

5 評価

- (1) 研修医は別掲の経験目標に従って自己の研修内容を記録し、手術症例のレポートを作成、指導医に提出する。また手術および処置に手技、診療能力の評価を指導医に受ける。
- (2) 到達目標、経験目標の達成状況を研修終了時に行う。
指導医は上記評価結果を総合し、当科研修終了の判定を行う。